

打合せ議事録

1. 議 題	学校保健のDXに向けたデータ連携基盤の構築（町田市実証事業） 事業運営検討会（第3回）
2. 期 日	2026年3月18日（木） 14：30～15：30
3. 場 所	リモート会議(Teams)
4. 出席者 （敬称略）	実証事業推進兼システム提供（内閣官房デジタル行財政改革会議事務局、合同会社デ ロイトトーマツ）、実証参加者（町田市民病院、町田市立藤の台小学校、町田市立鶴 川第二中学校）、意見提供（文部科学省、APPLIC） 事務局（町田市 教育委員会保健給食課、デジタル戦略室、株式会社NTTデータ）
5. 資 料	【会議資料】 事業運営検討会（第3回）配布資料

決定事項		
紙運用・PMH-Web運用ともに、2026年3月17日で全ての実証を完了した。 最終報告会では、速報ベースの結果共有と主要論点整理を行い、報告書案を関係者へ共有する。 報告書は来週1週間を目途に関係者確認期間を設け、その結果を踏まえて3月中に取りまとめる。		
保留事項		
議事内容詳細		発言者
01_会議趣旨・全体進行		
1	会議趣旨 第3回事業運営検討会(最終報告)を開始する。昨日3月17日をもって、予定していた実証は全て終了した。本日は最終報告会であり、結果報告、総合論点、令和8年度以降の本格実装に向けた方向性を共有する場とする。	町田市
2	本日の目的 本実証の内容確認および進捗共有、紙運用・PMH-Web運用の結果共有、令和8年度以降の本格実装に向けた主要論点整理、今後の改善・追加検証事項確認を目的とする。	NTTD
02_最終報告		
1	比較前提(再掲) 紙運用とPMH-Web運用を同一シナリオ・同一条件で実施し、時間・負担感、連携の質、満足度の観点で比較した。評価手段はストップウォッチ測定を基本とし、ヒアリング・アンケート・インタビューで定性情報も取得した。	NTTD
2	報告書作成の流れ 報告書は本日時点の案を関係所所に共有し、来週1週間を目途に確認を依頼する。確認結果を踏まえ、3月中に取りまとめる予定。医療機関参加者には本日アンケート依頼を行う。	NTTD
3	結果サマリー 保護者・学校では、電子化による時間削減効果が確認された。一方、医療機関は単純な時間比較は難しく、本格実装に向けた主要論点や業務フローの課題整理を重視する	NTTD
4	保護者結果(概要) 保護者役では、保健調査票・問診票入力等において、自己情報表示機能やプロフィール活用によりひとりあたり平均約9分25秒の時間削減効果が確認された。マイナンバーカード読取や暗証番号入力認証は分かりにくさが残った。	NTTD
5	学校結果(概要) 学校では、紙運用における帳票印刷、仕分け、封入・配付、回収後整理が大きな負担となっていた。PMH-Webでは案内発行や配付準備相当業務がオンライン化され、負荷軽減が大きく見込まれた。あわせて、持ち帰り忘れ、提出漏れ、回収遅延など紙特有のリスク低減も確認されたが、本格実装に向けて帳票の標準化、運用の標準化が必須である。	NTTD
6	医療機関結果(概要) 医療機関では、受診勧告報告書や学校生活管理指導表が、入力作業だけでなく診療説明、文書発行、医療事務を含む一連業務として運用されていた。特に学校生活管理指導票は、児童・保護者とのやり取りを伴うため、入力時間のみ一律比較は難しいという整理となった。	NTTD
7	保護者アンケート・インタビュー結果 保護者役50名を対象に実施し、本日時点で46名が回答。各設問は5段階評価のうち「4」が中心で、利便性向上や負担軽減実感はおおむね高い傾向だった。しかし「次に何をすべきか分かりにくい」「認証画面や画面遷移が分かりにくい」「マイナンバー認証・暗証番号入力が分かりにくい」といった課題が見	NTTD
8	総合論点 保護者では入力提出作業の省力化は確認できた一方、入力支援、個人情報共有範囲の明確化、重要通知の見せ方に課題がみられた。学校では配付前準備・回収後整理の改善余地は大きい。様式・運用の標準化が前提となる。医療機関では制度設計・運用設計が中心論点となる。	NTTD
03_次令和8年度以降の方向性		
1	保護者向け優先事項 操作画面における入力支援、本人確認・認証支援、不備修正時の差戻し導線の改善、個人情報の共有範囲・共有意図の分かりやすい整理が必要である。	NTTD
2	学校向け優先事項 帳票様式および運用フローの標準化が中核課題。校務システムに入力登録した情報の有効活用も論点となる。	NTTD
3	医療機関向け優先事項 文書料の取扱い、電子カルテとの役割分担、連携方法、医療事務を含む運用フロー整備が必須論点となる。	NTTD
4	総合論点 本年度実証により、事務負担・所要時間の軽減が見込まれる領域を確認するとともに、本格実装に向けた制度面・運用面で追加整理が必要な論点を切り分けた。	NTTD
04_質疑		
1	医療機関での実証結果に関する質問 医療機関のタイムスタディ結果の有無と特徴的な変化について教えてほしい。	デジ行財 畑中政策参与
	一定量の実測は実施しており、報告書掲載を予定している。速報ベースでは、紙に慣れている医療機関側は帳票として「書く場所を覚えている」ため、電子化で若干戸惑いが発生し、測定時間が長くなった場面もあった。アレルギー領域では紙における定位置記入との違いが入力上の課題と認識している。	町田市
	今、言及のあった論点については、募集要項の趣旨に沿って整理をお願いしたい。あわせて、報告に当たっては、実証で得られた結果や示唆が誤解なく客観的に伝わるよう、記載方法や表現ぶりについても、残りの期間で丁寧に精査いただきたい。	デジ行財 岡井参事官

議事内容詳細	発言者
05 意見交換・閉会	
<p>1 実証参加者からの発言</p> <p>現在業務負担となっている帳票の配布がスムーズにできる未来が見えて、養護教諭としては有難いと感じている。医療機関受診後に保護者が操作を失念すると、学校に通知が届かない仕組みとなっていることは課題だと感じる。</p> <p>紙でやることの手間の削減効果は確認できて良かった。また電子データとして過去の結果を残せるということが紛失や文書保管の観点でメリットと感じる。重要なのは、紙運用の場合でもデジタルの場合でも保護者や医療機関の関わりは変わらず大事な部分であるため、紙/デジタルのそれぞれの良いところを取り入れ実装に向けて検討を進めていただきたい。</p> <p>紙の複写式帳票を前提に成立している現行運用と、PMH-Web上の情報共有・返却フローとの対応関係が不透明だった。特に、医師記載後に保護者へ返却された情報がその後どのように学校へ渡り、現場で使われるのかが不明確である。学校生活管理指導表は単なる入力帳票ではなく、診療時に保護者・児童生徒へ説明するための臨床上のコミュニケーションツールでもあるため、現在の画面ではその運用が十分に再現することが課題だと感じている。</p> <p>アレルギ領域では、紙帳票では必要箇所に直接記載できる一方、オンラインでは必要項目の所在把握に時間を要するため、画面設計や視認性・画面遷移の改善が必要だと感じる。</p> <p>校務支援システムとPMH-Webの連携、電子カルテ連携などが今後の主要課題であると実証結果から認識ができた。一つ一つの課題を整理していき、学校・医療機関・保護者にとってより良い仕組みとなることを期待している。</p> <p>紙とデジタルではそれぞれ使い方や特性が異なることを改めて感じた。一方で、保護者や学校の負担軽減につながる可能性があることも確認できた。今後、今回の実証で得られた知見を踏まえながら制度面や運用面も含めて、よりよい仕組みにつなげていければと考えている。</p>	<p>藤の台小学校 中村先生</p> <p>鶴川第二中学校 佐藤先生</p> <p>町田市民病院 藤原先生</p> <p>町田市民病院 皆川先生</p> <p>町田市 保健給食課</p> <p>町田市 デジタル戦略室</p>
<p>2 関連機関からの発言</p> <p>紙からデジタルへ大きく変わることの利便性が確認された一方で、データは入力間違いの影響が大きい。今後校務支援システムベンダー側でも連携に協力させていただきたい。また、学校の情報は閉鎖的な傾向があるが、これからは保護者、医療機関とも本実証のような形で連携できることを大きく期待している。保護者や学校の負担軽減については概ね期待どおりの成果が得られたことが窺えた。他方、町田市民病院長の先生方からもコメントがあったように、保護者へ返却された情報が学校に共有されているかが見えてこなかったため、学校や医療機関の連携について課題や感想があれば、学校の先生方に伺いたい。デジタル化することが目的ではなく、データ連携することにより、子供たちの健康管理を適切かつ効率的に行うことができるようになることが本来目指すべき姿であると考えている。</p> <p>今回の実証では、学校と医療機関連携については十分に検証しきれていない認識。医療機関から学校へ直接情報が届くことは、正確性向上の利点があると思う。その一方で、保護者を介さない仕組みが進みすぎると、保護者の関与や当事者意識が下がってしまうことは望ましくない。子どもの健康に関して、学校と連携する保護者の姿勢は維持されるべきであり、その点も踏まえ今後のあり方を考えていく必要がある。</p> <p>紙とデジタルの双方に利点があり、単純な全面デジタル化ではない整理が必要だと考えている。一方で、多言語対応、帳票変更の迅速反映、転記削減等、デジタルの強みを発揮できる場面も多くある。今後はAIなどを活用し保護者や教職員を支援する可能性も残しつつ、今後は、デザイン改善と制度整理の両面から議論を深め子どもの健康を支える展開を目指していきたい。</p> <p>保護者・学校での削減効果の見込みは、今後の全国展開を進めていく上で大きな裏付けと後押しとなる。あわせて医療機関からの現場の声から得られた知見も含め、成果と課題の双方が明確になったと考えている。認証、標準化、他システム連携等今後の課題も明らかになっているため、今回の成果を次の段階に繋げていく必要がある。</p>	<p>APPLIC 岡本様、小川様</p> <p>文部科学省 吉川様</p> <p>鶴川第二中学校 佐藤先生</p> <p>デジ行財 畑中政策参与</p> <p>デジ行財 岡井参事官</p>
<p>3 総括・閉会</p> <p>お集まりいただいた皆様のご協力により、短期間にも関わらず無事実証を終えることができた。今回の実証により、保護者と学校ではDXの効果が確認できた一方、帳票の共通化、医療機関業務との一気通貫の方策、電子カルテとのデータ連携などの課題も明確になった。あわせて、今後の推進にはシステム改善だけでなく、文部科学省様・厚生労働省様による制度面での後押しやリーダーシップが重要であると感じている。今回の成果を令和8年度以降の本格実装に向けた学校保健DXの取組につなげていきたい。</p>	<p>町田市</p>